

総合的な学習の時間指導案

安芸高田市立小田小学校

指導者 胡濱 樹里

- 1 日時 平成25年11月27日(水) 第5校時
- 2 学年 第5学年 11名
- 3 単元名 福祉について考えよう ～優しさいっぱいとどけ隊～
- 4 単元について

○児童観

5年生の児童は、4年生までの総合的な学習の時間で、地域の人々とのふれあいや体験活動を通して、地域の自然のすばらしさや地域をよりよくしようとする人々との出会いから、自分たちの住む地域のよさや、地域の人々に支えてもらって今の自分がいることに気付いている。地域のために、自分たちができることをしてみたいという思いを持っているが、自分たちがどうやって地域づくりに参画すればいいのか、実際に自分たちに何ができるのかを考えて行動しようとする力はまだ十分に身につけていない。

5年生になり、児童は今までの先輩たちの取り組みから、老人ホームへ行って交流することを楽しみにしていた。そこで、みんなが幸せだと感じるステキな町へとするために、自分たちができることを考えていこうという課題設定を行い、老人ホームへ行って、お年寄りの方との交流を通して自分たちができることについて考える高齢者福祉についての学習をスタートさせた。

児童は、1回目の交流会に向けて老人ホームを見学することで情報を集め、集めた情報をもとに1回目の交流会を実施した。その交流会でお年寄りの方に喜んでいただくことはできたが、「交流会」なのに自分から話しかけることができなかったという積極性と、コミュニケーションを図ろうとする意識の薄さが課題として挙げられた。

○単元観

児童を取り巻く社会には、さまざまな人々が生活し、すべての人が幸せになりたいと願っている。みんなが幸せな生活をするためには、一人一人の違いを認め、相手を分かろうとし、相手のことを考えて接していくことが必要である。このことに気付き、実践する体験の場として、介護福祉施設・障害者作業所・保育所などを活用する。これらの施設を訪問し、ともに活動したり交流したりする経験、調べたりする活動を通して、人とつながっていく力をつけていくとともに、人々の支え合いの大切さを感じることができる。しかし、一方で、児童はこれまで考えたことがない課題にも直面するようになる。児童はそこからだれもが住みやすい町にするために自分たちができることを考え、行動にうつす体験を繰り返すことにより、自分の課題に対して自ら進んで解決する力をつけ、それが学習意欲につながるとともに、これからの自分の生き方につなげていくことができると考える。さらには、児童用シラバスの活用や自己評価活動の充実により、達成感や充実感、学習の連続性をもたせ、課題解決の能力や自己の生き方を高めていく。

○指導観

指導にあたっては、次の3点に留意して取り組む。

1点目は、施設の方やお年寄りの方と積極的に関わることで3つのことに気付かせることである。

- ①施設の方やお年寄りの方の思い。(施設の方やお年寄りの方から直接話を聞いたり、質問をしたりする活動を通して)
- ②自分たちができること。(お年寄りの方や施設の方の立場に立って考えさせるなど、自分以外の誰かの視点に立って、物事を見たり、考えさせたりする活動を通して)
- ③自分たちへの期待。(自分たちができると考えた活動を実際に地域の人や友だちとともに行っていくことを通して)

2点目は、自分の考えをキーワードにまとめながら話し合い活動を行うことである。そのために、学習過程の節目で、調べたことや活動したことを整理・分析する機会や自己評価カードの充実を図り、振り返りを充実させたい。体験活動から考えたこと、今の段階で自分が考えていることを整理させながら、気付きの質を高めていきたい。

3点目は、児童用シラバスの活用である。児童用シラバスを、児童が見通しをもって学習を進めるためのツールにするとともに、評価や振り返りの工夫により、児童に自分の成長や学習の連続性を実感させ、学習の足跡としても活用していきたい。

5 単元の目標

だれもが住みやすい社会の実現に向け努力しておられる地域の人たちや社会福祉施設等での人々との出会いを通して、お互いに支え合うことの大切さを学ばせ、次のような資質や能力及び態度を育成することを旨とする。

- 地域の社会福祉について関心を持ち、調べたいことや自分たちの解決すべき課題を見付け、有効な方法を選んで課題を解決することができる。(ア 課題解決能力)
- 活動を通して、自分のがんばりやよさに気付いたり、他の教科に生かしたりする。また、これからの自分の生き方や社会の一員として自分たちができることを考えていくことができる。(イ 自己の生き方)
- 友だちや地域の人々とともに行動しようとするとともに、地域の人々の努力・工夫、友だちのよさに気付いたりすることができる。(ウ 人間関係形成能力)

6 単元の評価規準

ア 課題解決能力	イ 自己の生き方	ウ 人間関係形成能力
①高齢者・障害者・児童福祉に関わる地域の問題や地域の福祉施設に関心を持ち、自分が調べたい課題を見付け、だれもが住みやすい町づくりの実現のための活動を計画したり、見通しをもったりしている。 ②福祉施設の役割や実情、地域の福祉に関する課題を調べるために必要な情報を集め、選択し、活用している。 ③課題解決のために集めた情報を分析して選んだり、修正したり、関連付けたりして整理している。 ④相手に応じた表現方法を考え、伝えたいことを伝えている。	①福祉施設の人とのふれあいや施設での体験、調査、まとめなどの活動を通して、自分のがんばりや反省点を考え、自分の成長やよさを自覚している。 ②地域の高齢者・障害者・小さな子どもを考えた活動することで、地域の中で役に立つ自分自身を感じている。 ③だれもが住みやすい町にするための活動を通し、地域や家庭の中でどう生きていけばよいか考えている。	①見学や交流会、だれもが住みやすい町づくりのための活動を通して、積極的に福祉施設や地域の方にかかわろうとしている。また、高齢者、障害をもった人々とともに活動するための配慮の仕方などを積極的に知ろうとしている。 ②計画、準備、活動、反省という学習の中で自分や仲間のすばらしさに気付いている。 ③人の話や意見をしっかり聞き、お互いの考えの違いを分かり合いながら活動している。

7 指導計画 (全65時間)

次	学習活動	評価			
		課	自	人	評価方法
1 (2)	学習課題を設定しよう ～5年生の学習テーマとシラバス作り～				
2 (10)	高齢者福祉について考えよう① ～老人ホーム甲田 施設について知ろう～				
3 (10)	高齢者福祉について考えよう② ～特別養護老人ホームとの交流～				

<p>4 (17)</p> <p>高齢者福祉についてまとめよう</p> <p>○これまでの交流会をまとめよう。</p> <p>◀整理・分析▶▶まとめ・表現◀</p> <p>○「笑顔」をみんなに届けよう。</p> <p style="text-align: right;">【学習発表会】</p> <p>◀課題の設定▶▶まとめ・表現◀</p> <p>○地域の老人ホームについて考えよう。</p> <p>◀情報の収集▶▶整理・分析◀</p> <p>○お年寄り体験をしてみよう。</p> <p>◀課題の設定▶▶情報の収集◀</p> <p>○自分たちができることについて考えよう。</p> <p>◀整理・分析▶</p> <p style="text-align: right;">【本時 15/17】</p> <p>○優しさいっぱいどけ隊として、やってみよう。</p> <p>◀まとめ・表現▶</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・相手に応じた表現方法を考え、伝えたいことを伝えている。ア③ ・福祉施設の人とのふれあいや施設での体験、調査、まとめなどの活動を通して、自分のがんばりや反省点を考え、自分の成長やよさを自覚している。イ① ・計画、準備、活動、反省という学習の中で自分や仲間のすばらしさに気付いている。ウ② ・福祉施設の役割や実情、地域の福祉に関する課題を調べるために必要な情報を集め、選択し、活用している。ア② ・見学や交流会、だれもが住みやすい町づくりのための活動を通して、積極的に福祉施設や地域の方にかかわろうとしている。また、高齢者、障害をもった人々とともに活動するための配慮の仕方などを積極的に知ろうとしている。ウ① ・人の話や意見をしっかり聞き、お互いの考えの違いを分かり合いながら活動している。ウ③ ・地域の高齢者・障害者・小さな子どものことを考えて活動することで、地域の中で役に立つ自分自身を感じている。イ② 	<p>自己評価カード 行動観察</p> <p>掲示物 行動観察</p> <p>行動観察</p> <p>自己評価カード 行動観察</p> <p>自己評価カード 掲示物</p> <p>自己評価カード 行動観察</p>
5(16)	障害者福祉について考えよう				
6(8)	だれもが住みやすい町づくりのための提言をしよう				
7(2)	1年間の活動のまとめをしよう				

8 本時の展開

- (1) 本時の目標 お年寄りにとって優しい町づくりのために、自分たちができることについて考えることができる。
- (2) 評価規準 人の話や意見をしっかり聞き、お互いの考えの違いを分かり合いながら活動している。
【評価指標】 ①話し合いにおいて
 キーワードで自分の考えをまとめ、話し合いに参加している。
 ②振り返りにおいて
 自分の考えが深まったことや変わったこと、次につながることを書いている。
- (3) 準備物 児童用シラバス・自己評価カード・キーワードを記入するカード（黒板用）
- (4) 学習の展開

学 習 活 動	支援と指導上の留意点	評価の観点と方法
1 高齢者疑似体験での気づきを交流する。 2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示することで、体が不自由であると、歩行時の困難や、段差でのつまずきなど、日常生活で大変なことがあることや、車いすを押す、杖をつくなどの補助具を利用した時の気づきを思い出せるようにする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お年寄りにとって優しい町づくりのために自分ができることについて考えよう</div>		
3 気づきの交流から、優しい町づくりのために、自分ができることはないか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに、本時の学習は何のためにするのかを記入することで学習の価値を確認し、目的をもって本時に取り組めるようにする。 ○・前時までの振り返りも活用し、お年寄りにとって優しい町づくりとはどんな町なのか、そのために自分ができることは何かをキーワードにまとめさせる。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 考 自分自身の生活と、疑似体験での経験を結びつけて考えさせる。 </div>
4 意見交流会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○・児童にキーワードだけをカードに記入させて黒板に貼らせ、似たような意見をまとめていく。 【共感的】 ○大まかな括りでまとめられるように、すぐできそうなもの、日々の生活の中で意識していくもの、取り組むのは難しいものといった視点を示す。 ○・お年寄りにとって優しい町にするために、自分ができることを考えていく中で、お年寄りだけでなく、自分にとっても、誰にとっても住みよい町になる行動や意識であることに気付かせていく。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 表 キーワードにさせることで視点をしぼって、自分の意見を表現させる。 </div> <p>人の話や意見をしっかり聞き、お互いの考えの違いを分かり合いながら活動している。 <small>(行動観察・自己評価カード)</small></p>
4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードに、自分の考えが深まったことや変わったこと、次につながることを書かせるとともに、児童用シラバスで次時の学習内容を確認し、本時の学習の達成感と次時への意欲をもたせる。 	

言語活動の充実

(5) 板書計画

福祉について考えよう

お年寄りにとって優しい町づくりのために自分ができることについて考えよう

写真



- ・足が重たくて少し歩くだけでつかれた。
- ・杖をついたら楽だと思ったけど、足や腰が重いと段差を歩くのは怖い。
- ・車いすを押した時、お年寄りに喜んでもらったからうれしかったけど、実際に乗ってみたら、前に落ちそうになってこわかった。スピードは出したらダメだと分かった。
- ・目があまり見えないと不安だった。
- ・早口でしゃべると聞き取りにくい。

みんなが笑顔！！

声をかける

- ・手伝いましょうか？

自分が動く

- ・道路の端へよける
- ・段差があれば、手を貸す

ゆっくり

- ・話すスピード
- ・目をみて

優しい気持ち

- ・一緒に
- ・

お年寄りにとって

優しい町にするために



- ・行動
- ・気持ち（意識）



みんなにとって

住みよい町へつながる！！

(6) 自己評価カード

高齢者福祉についてまとめよう

名前 ()

① 今日のため

お年寄りにとって優しい町づくりのために自分ができることについて考えよう

② 自分ができることはなんだろう??

キーワード・・・

理由

③ 学習のふり返りを書こう。

(自分の考えが深まったこと・自分の考えが変わったこと・次の学習につながること)

学習のふり返りが書けたかな？	
自分の考えが深まったこと	
自分の考えが変わったこと	
次につながること	